

住居内面部位における浄・不浄感の序列に関する研究

正会員 ○ 原 朝子*1
同 岩井今朝典*2
同 直井 英雄*3

■研究目的■

我々は、例えば住居床に対して、同じ仕上げ、同じ清掃状態であっても、居間の床よりトイレの床の方が不潔で、裸足では気持ちが悪いなどと感じることが多い。本研究では、このように物質的な汚れではなく、場や空間の違いによって漠然と感じる「けがれている、きたならしい」という感覚を浄・不浄感と呼ぶことにし、住居内にある各種面部位における浄・不浄感の序列に関する全体的な傾向を定量的に把握することを目的とする。

■研究方法■

(1) 研究方法：本研究では、床、窓などの面部位に対して、我々が無意識に感じている浄・不浄の序列を引き出す方法として、以下に示す3つの観点からアンケート調査を行い、その結果をまとめ、さらに個人差に関する検討を加えた。

(2) アンケート項目：表1に示す住居内の代表的な面部位を対象に、浄・不浄感が無理なく引き出せるであろうと思われる典型的な場面設定として、1) 動作、2) 食べ物、3) 掃除の3つの観点を取りあげ、以下のアンケートを行った。

1) 動作：表1に示す履き物、姿勢を組み合わせた動作を各面部位の上で行うと仮定し、身体がその面部位に触れることに対して、「抵抗がない(0)」「やや抵抗がある(1)」「非常に抵抗がある(2)」の3段階で評価してもらい、その結果を得点化し、集計した。さらに、抵抗がある場合には、その理由として「面部位をけがすから(+1, +2)」「身体・履き物がけがされるから(-1, -2)」のどちらかを選択させた。

2) 食べ物：各面部位上に落とした2種類の食べ物(①お菓子、②皮をむいたりんご)を食べることに対する抵抗の有無を上記と同様の3段階で答えさせた。

3) 掃除：表1の面部位から2つの組み合わせ(A面、B面)を取り出し、使い捨ての布でA面を拭いた後にB面を拭くとしたときに、B面がけがされるかどうかという観点で、上記同様に抵抗の有無を3段階で答えさせた。

(3) アンケート対象者：本学学生26人(男子16人、女子10人)を対象とした。

表1 アンケート項目

面部位	机上面	食卓+	座卓+	アンケート項目
		勉強机+	ベッド	
	座面	椅子+	和室	1) 姿勢 履き物 裸足 靴下 スリッパ 立つ 足を乗せる 姿勢 腰掛ける 座る 寝そべる
	窓面	居室	トイレ	
	床面	和室	洋室*	2) 食べ物
		台所*	廊下*	
		トイレ*	玄関下*	3) 掃除

仕上げ材：+木製、*フローリング、*タイルとする

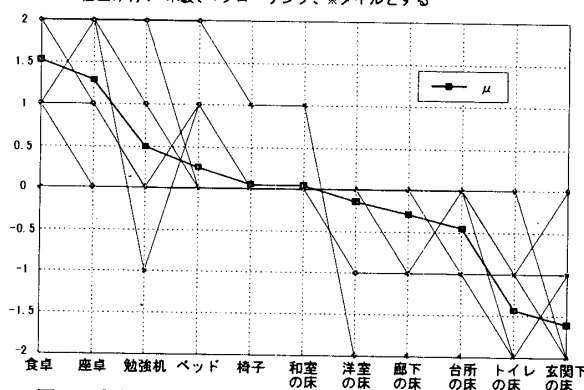


図1 動作(裸足で立つ)についての対象者の生データ

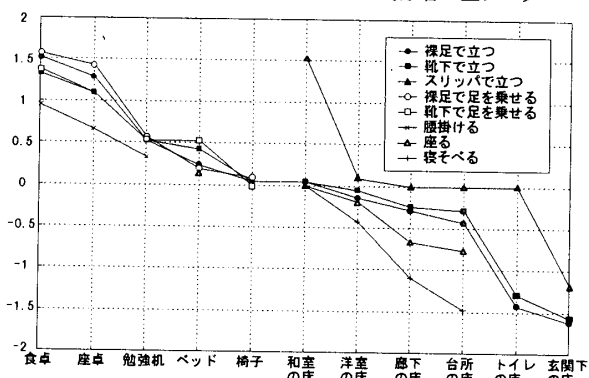


図2 動作に関するアンケート結果(評価平均値)

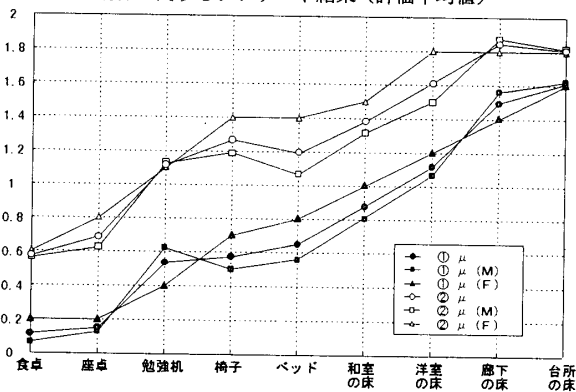


図3 食べ物に関するアンケート結果(評価平均値)

A Study on the Order of Sense of Cleanliness or Dirtiness to Surfaces of Dwelling Space

HARA Asako et al.

■研究結果および考察■

以下、結果および考察をいくつかの項目に分けて述べるが、用いた集計結果は、矛盾が見られる対象者のデータを削除したものである。

(1) 動作について：図1は、各面部位の上に「裸足で立つ」という動作についての対象者全員の結果とその平均値を示したものである。図2は、動作に関する対象者の評価平均値を姿勢別に比較したものであり、各面部位が履き物・姿勢とどのような相性があるかが伺える。特に、床面においては、接触が大きい姿勢ほど面部位に対する不浄感が増していることが分かる。

(2) 食べ物について：図3は、各面部位上に落とした食べ物を食べることにに対する抵抗の低い順に、対象者の評価平均値を示したものである。これを見ると、異なった食べ物であっても、ほぼ同様な傾向を示しているが、落ちる高さ、落とした空間によっても違いがあることが分かる。また、男女の平均値を比較すると、2種類とも女子の方が高く、感覚の差が表れていると思われる。

(3) 掃除について：図4、5は、掃除に関する評価結果の平均値を示したものである。図4は、例えば、和室の床を拭いた後にそれ以外の面部位を拭くことに対する抵抗の有無を合計したものであり、他の面部位をけがすおそれのない序列である。図5は、逆に他の面部位によってけがされたくない序列を示している。これらの図より、若干の入れ違いはあるが、面部位の序列がほぼ同様になっていることが分かる。

(4) 3つの観点の比較：以上の3つの観点について相互比較したところ、「机上面・座面・窓面・床面」の4つに大きく分けた序列化がされており、さらに、床面の中の序列が全ての場合に一致していることが分かる。

(5) 個人差について：図6は、図5に示した掃除に関する対象者の評価結果を合計したものを因子分析にかけ、対象者の因子得点によりクラスター分析を行った結果である。図7は、図6の6つのグループごとに平均値を示したものである。これによると、グループ(3)は、各平均値と比較すると窓面を特別な存在と捉え、グループ(5)、(6)は、和室の床を他の床面および窓面より清浄であると位置づけていると考えられる。

■まとめ■

以上、本研究により、住居内面部位における浄・不浄感に関して、アンケート対象者の基本的な傾向をおおよそ把握することができた。その中で、各面部位を4つに大きく分けて序列化していることなどが明らかになった。なお本研究に際しては、昨年度東京理科大学卒研究生、中村聡久、堀口純子、吉田安信諸氏の協力を得た。

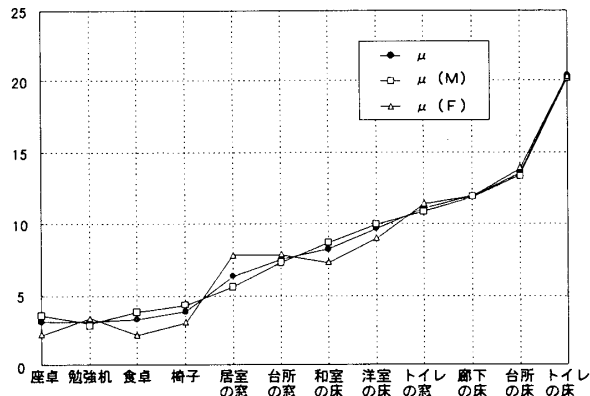


図4 掃除に関するアンケート結果 (A面について)

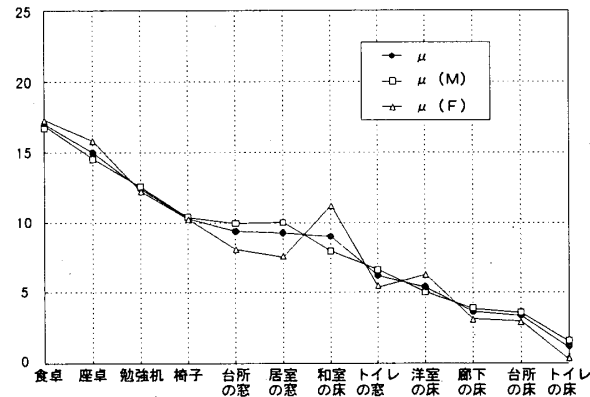


図5 掃除に関するアンケート結果 (B面について)

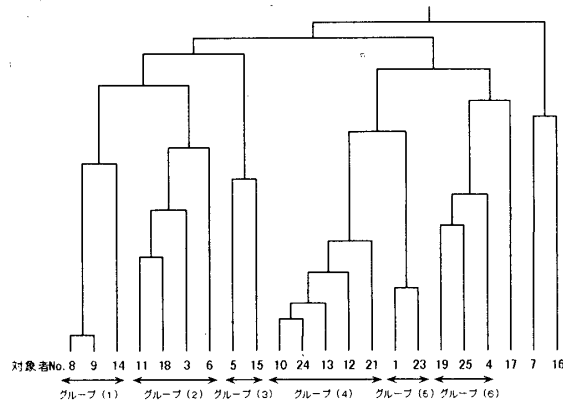


図6 掃除に関する結果のクラスター樹形図 (B面について)

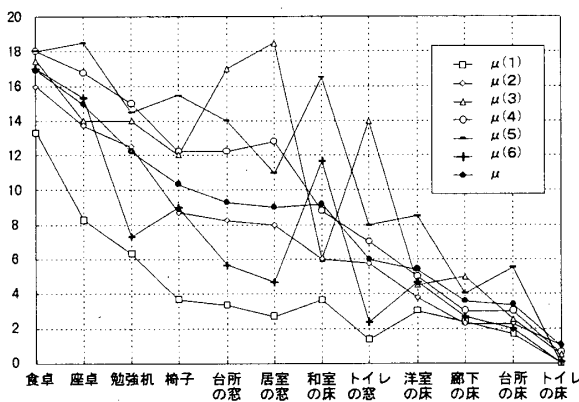


図7 掃除に関する結果のクラスター別平均値の比較 (B面について)

* 1 東京理科大学大学院生 Graduate Student, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo
 * 2 当時同大学助手 Research Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo
 * 3 同大学教授・工博 Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo, Dr. Eng.